

日南で野良猫の不妊去勢を 宮崎ねこの会寄付募る

佐藤修史 2020年12月10日 9時30分



list

0

宮崎市に拠点を置く市民団体「宮崎ねこの会」（山本清美代表）は今月から、宮崎県日南市で不妊・去勢していない野良猫の手術に取り組む。市内で少なくとも430匹を確認。費用に200万円超を見込むが、日南市の協力は得られず、一般の寄付を募っている。

宮崎ねこの会は今春に発足し、会員は約500人。野良猫を捕獲（Trap）し、不妊去勢手術（Neuter）をし、元の場所に戻す（Return）という「TNR活動」を進めている。今いる野良猫の命を守りつつ繁殖を抑制し、数を減らす取り組みだ。

日南市内には動物愛護団体もなく、TNRが「ほぼ手つかず」で、捨て猫も多いという。会の調査では、日南市はこれまで、野良猫に餌を与えている市民に即時中止を求めたり、家の中で飼うよう求めたりしていた。このため、やむなく野良猫を自宅に入れ、30匹を超す多頭飼育につながったケースもあるという。

市の求めに応じ、今夏、自宅の庭に小屋を作り、野良猫5匹を飼い始めた70代男性は「『餌をやっている以上、あなたの猫んだ』と話す。

会はそうした現状を踏まえ、10月に市に対し、公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県）の助成によるTNR活動を提案した。同基金は行政の求めに応じ、無料の出張手術をしたり、協力病院で使える無料の手術チケットを発行したりしている。

だが、市は11月、出張手術については「誤って飼い猫を手術してしまうリスクが高い」などとして「大変難しい」と回答。無料チケットの活用についても、「今後、要綱を策定する」と答えるにとどまった。

市地域自治課の担当者は、餌やりの中止要請について「汚物被害の苦情が多く、お願いベースだった。宮崎ねこの会の指摘もあり、餌やり自体の中止を求めることはやめた」とし、「今後は（地元住民が野良猫を管理する）地域猫活動にシフトしたい」と話した。ただ、基金を利用する要綱の策定は来年2月以降になるという。

基金の佐上邦久理事長は「ルールを決めて誰かが餌をやらないと、野良猫はゴミをあさったり家屋に入ったりする。TNRで数が減るのは過去10年の統計上明らか。一刻も早く取り組むべきだ。誤って飼い猫を手術するリスクは極めて低い」と話す。

今年3月に同会の提案を受けた宮崎市では、基金を利用してすでに約500匹の手術を済ませた。日向市も基金を活用している。

宮崎ねこの会は日南市の動きを待たず、独自にTNR活動をすることを決定。今月24日から断続的に実施し、毎回50～60匹を目標にする。山本代表は「屋外で飼う人や野良猫に餌をやりっぱなしの人に手術の必要性を伝えたい」と話す。

募金は「ゆうちょ銀行七三八支店 普通1976013 宮崎ねこの会」で受け付けている。（佐藤修史）